

施設長あいさつ

明けましておめでとうございます。皆さまには、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。入居されている皆さまも穏やかに新しい年をお迎えになりました。

さて、当施設は昨年、新型コロナウイルス感染症のクラスターが2回発生しました。保健所と若草病院の指導のもと迅速に感染防止対策に徹底して取り組んだこと、また、感染による人員不足があるなか職員が懸命に努力した結果、感染の広がりを抑えることができました。反省すべき点を改善し、まだまだ続くこの感染症に対応してまいります。



わかくさは7月で4年目に入ります。本年は外部の第三者による評価（第三者評価）を受審する予定です。第三者評価は、施設の基本的な組織体制や運営方針などの骨組・構造（ストラクチャー）、ケアの基本方針に基づくケアの実践（プロセス）、提供したケアの効果（アウトカム）というように施設全体が評価の対象となります。現在、受審に向け施設の総点検を行い、様々な改善活動に取り組んでいるところです。

令和5年度の施設目標を「第三者評価をステップとして、ケアの質の改善と経営改善を図る」としました。目標達成のためには、業務の可視化により標準化を実現しなければなりません。第三者評価受審を機会に、より質の高いケアの提供を目指していきます。

本年が良い年になりますよう、職員一同取り組んでまいります。何卒よろしくようお願い申し上げます。

令和5年1月 施設長 清水 雅



第5回 病気について 高齢者の誤嚥性肺炎 ～その1 特徴・治療について～

誤嚥性肺炎とは、飲食物や唾液・胃の内容物が気管に入ってしまう「誤嚥」が原因でおこる肺炎です。誤嚥性肺炎が高齢者に多い原因は、

1) 嚥下機能の低下 2) 口の中の細菌 3) 加齢により免疫の低下により細菌に勝てない 4) 栄養不良等が挙げられます。特に脳梗塞後遺症やパーキンソン病などの持病があると喉の神経や筋肉が正常に働かずリスクが高くなります。さらに寝たきりの方や糖尿病の方は注意が必要です。

肺炎の一般的な症状は発熱・咳・痰などですが、高齢者はこのような症状に乏しく、以下のような状態で気づくことが多いのも特徴です。

- ・何となく元気や食欲がない
- ・ウトウトしていることが多い
- ・いつまでも飲み込まない
- ・夜中に咳き込む等複数の状態で気づくことが多いです。

また「不顕性誤嚥」も特徴です。これは、寝ている間に気管や肺に唾液が垂れ込み、知らずのうちに誤嚥を繰り返している状態です。無意識のうちに起こっている為に病状が進行する危険があります。

誤嚥性肺炎の治療は抗菌薬による薬物療法が基本です。当施設でも予防と早期発見に努め、軽症の場合は食事を中止し医師と相談の上施設内で治療しています。しかし症状が重いと入院治療となります。一時的な治療で肺炎は治りますが、喉の機能低下は治りませんので繰り返す恐れと抗菌薬が効きにくくなり治療が困難になってきます。

誤嚥性肺炎を予防しつつ、いつまでも口から食べられることを望んでやみません。次回は、誤嚥性肺炎の予防と対策について説明します。

～ 医務室 ～



わかくさの理念「ともに あなたらしさの虹をえがく」

～ 基本方針 ～

- ・良質なサービスを提供します
- ・向上心を持った職員が接します
- ・地域との連携を図ります
- ・笑顔が絶えない施設をつくります



各ユニットにてクリスマス会を行いました。皆様楽しんで頂けたようでなによりです。

Merry Christmas!!



手作りいちごケーキ



ホーム食

リゾット・スープ マッシュポテト
 ハーブチキン・ハンバーグ・キッシュ
 シーザーサラダ クリスマスリース
 (和菓子)

ご当地青森 ねぶた祭り

わっぱ飯 貝の卵味噌焼き
 郷土汁 りんごフルーチェ